

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第34回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「豪雪」

中部森林管理局の管内は南北に広く、地理や高度も様々であり、積雪量も場所や年によって大きな違いがあります。



昭和30年頃、雪に覆われる建設中の飯山営林署庁舎（北信森林管理署の旧庁舎）

中部地方で戦後に記録に残っている大雪としては昭和三十八年の一月から二月にかけての「三八豪雪」、昭和五十五年の十二月から昭和五十六年一月にかけての「五六豪雪」が知られています。



昭和三十八年、雪の中の富山営林署庁舎（富山森林管理署の旧庁舎）



昭和56年、3m積もった屋根の雪おろし（現在の飛騨森林管理署管内）

こうした豪雪の際、山間部では集落の長期にわたる孤立、建物の倒壊、物資不足などが

発生し、営林署関係者も雪おろしや除雪作業、地元との協力などの対応に追われることとなりました。

また豪雪の際には林木の折損・倒伏といった森林の被害、各種作業の中断・交通機関の混乱による木材出荷量の減少など、林業・木材産業にも雪が解けた後まで続く大きな影響が現れました。



昭和38年、岐阜県荘川村の救急患者を高山市内の病院に運ぶ（後方車両が村役場のもので患者が乗車。前方車両が荘川営林署のもので、営林署の職員もロープで牽引している。／現在の飛騨森林管理署管内）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。

